（別紙様式4）

令和5年10月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
日本工学院北海道専門学校	昭和56年9月25日	福井　誠	〒　059-8601 （住所）北海道登別市札内町184-3 （電話）0143-88-0888
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人片柳学園	昭和31年7月10日	千葉　茂	〒　144-8650 （住所）東京都大田区西蒲田5-23-22 （電話）03-6424-1111

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化・教養専門課程	CGデザイナー科	平成27(2015)年度	－	－

学科の目的	デジタルエンターテイメント業界に対応できるデザイナーとして必要な専門知識と実践的な技術を身に付け、かつ社会人としての素養と常識を持った人材を育成すること。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	クリエイターに必要な基礎力と専門性を高めるカリキュラムを実施しており、作品づくりを通して技能を習得している。また業界に関連するデジタルコンテンツ、情報技術の基本的な知識と、日常生活や社会へのマルチメディアの応用について、幅広い知識を測るマルチメディア検定を受験し幅広い知識を習得する。

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 単位	645 単位時間 単位	2,280 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)
40 人	36 人	0 人	0 %

就職等の状況	
■卒業者数 (C)	: 20 人
■就職希望者数 (D)	: 13 人
■就職者数 (E)	: 8 人
■地元就職者数 (F)	7 人
■就職率 (E/D)	62 %
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	88 %
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	40 %
■進学者数	3 人

■その他

研究生2名

（令和　　4 年度卒業者に関する令和４年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和4年度卒業生）

イラスト制作、CG制作、映像制作など

第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　受審年月：　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ
当該学科のホームページURL	http://www.nkhs.ac.jp

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間
うち必修授業時数	単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総授業時数	71 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	5 単位
うち企業等と連携した演習の授業時数	5 単位
うち必修授業時数	5 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	5 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	1 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		1 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	1 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針
①コンテンツ制作を業務とする企業から連携企業を選択する。
②企業との連携により、アドバイスを受けながら実践的な実習・演習を構築する。
③制作現場から求められる専門的でかつ実践的な実習・演習を行うことを目標とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
学科において現在実施中の教育内容と基に次年度以降に実施するカリキュラムの予定を作成する。教務課指導により教育課程編成委員会（以下委員会）を招集し、現在または次年度以降に実施する教育内容が実践的であるか検討を行う。委員会において得られた結論は、各学科が教育内容へ適用する方法の検討を行い、最終的には授業科目の開設・授業内容の改善・最新の知識や技術の導入などを行う。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年9月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
平林　滋明	株式会社平林紙店	令和3年4月1日～令和5年3月31日	③
菊地　徹	登別市企画調整グループ	令和3年4月1日～令和5年3月31日	①
佐藤　幸夫	日本工学院北海道専門学校		
園下　哲弘	日本工学院北海道専門学校		
齋藤　光一	日本工学院北海道専門学校		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回　（2月、3月）

（開催日時（実績））
第1回　令和5年2月3日　16：30～18：00
第2回　令和5年3月22日　14：00～15：30

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
外部への公開をするうえで学生の時から著作権についての考え方を理解する必要があるという話を頂いた。プロモーション 課題を作成する際に、公開することを意識して著作権の許可を取る手順も指導内容に入れた。 また、人に見られることを意識した作品作りをしていくためにLive2Dのモデル作成に関して、にじコンというコンテストで公開し 販売する課題にも取り組んでいる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
コンテンツ制作を行っている企業から連携企業を選択する。企業との連携により、実践的な実習・演習を構築する。学生が専門的でかつ実践的な実習・演習を行うことを目標とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
学生作品の企画立案プレゼンテーション、および政策の中間発表プレゼンテーション、最終発表プレゼンテーションを行い、そろぞれの作品・プレゼンテーションの評価を得る。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
3DCG演習	2Dイラストから3DCGモデルを作成し、MAYAを用いた作品制作を経験する。	株式会社アレクト
卒業制作	1年間の集大成として、個人またはチームで制作活動を行い、作品を完成させます。	株式会社アレクト

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 片柳学園職員学内研修実施取扱細則により定められた方針に基づき、教員のスキル向上のため以下の研修を開催または、必要に応じて外部研修への参加を行う。			
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	実践的Substance Painter入門	連携企業等：	株式会社ボーンデジタル
期間：	2023年3月27日	対象：	CGデザイナー科教員
内容	SubstancePainterを用いたテクスチャ制作とマテリアル作成方法について		
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等：	北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会
期間：	2022年8月2日	対象：	専修学校等の教職員
内容	コーチングの理論とその活用について		
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	Unity Shurikenで作るはじめてのゲームエフェクト	連携企業等：	株式会社ボーンデジタル
期間：	2023年度中	対象：	CGデザイナー科教員
内容	Unityの標準パーティクルツールである「Shuriken」を活用したゲームエフェクト制作とエフェクトツールの展望について		
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等：	北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会
期間：	2023年8月1日	対象：	専修学校等の教職員
内容	心動かす価値が未来を変える ～持続可能な組織・地域をつくるために～		
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			
研修名：		連携企業等：	
期間：		対象：	
内容			

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
・学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる
・学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校作りをすすめる
・学校長は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援や条件整備等の改善措置を講ずる

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているのか。 ・学校における職業教育の特色は何か。 ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。 ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知されているか。 ・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか。
（2）学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか。 ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。 ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか。 ・人事、給与に関する規定等は整備されているか。 ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか。 ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。 ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。
（3）教育活動	・教育理念に沿った教育課程の・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。編成・実施方針等が策定されているか。 ・学校等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。 ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか。 ・授業評価の実施・評価体制はあるか。 ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。 ・成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 ・資格試験取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 ・人材育成目標の達成に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか。 ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。 ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得する資質向上のための取り組みが行われているか。 ・職員の能力開発のための研修等が行われているか。
（4）学修成果	・就職率の向上が図られているか。 ・資格取得の向上が図られているか。 ・退学率の向上が図られているか。 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。 ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動への改善に活用されているか。

（5）学生支援	・進路就職に関する支援体制は整備されているか。 ・学生相談に関する体制は整備されているか。 ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ・課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ・学生に生活環境への支援は行われているか。 ・保護者と適切に連携しているか。 ・卒業生に対する支援体制はあるか。 ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。 ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。 ・関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか。
（6）教育環境	・施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。 ・防災に対する体制は整備されているか。
（7）学生の受入れ募集	・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか。 ・学生募集活動は、適性に行われているか。 ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。 ・学生納付金は妥当なものとなっているか。
（8）財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定してるといえるか。 ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ・財務に関して会計検査が適性に行われているか。 ・財務情報公開の体制整備は出来ているか。
（9）法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ・個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。 ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。 ・自己評価結果を公表しているか。
（10）社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 ・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。 ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託を積極的に実施しているか。
（11）国際交流	・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか。 ・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続きが取られているか。 ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。 ・学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか。

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
・休退学への取組の検討
①学生と年3回、1人30分～1時間の面談を行い、学生と教員の考えを共有することで信頼関係を築き、相談しやすく休退学に向かないための仕組みづくり
②欠席連絡を担任に直接行う仕組みづくり（電話応対の練習も兼ねる）、連絡がない場合は担任とクラスメイトから連絡を行い、孤独ではなく頼れる仲間や上司がいることを実感させる仕組み

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
菅田　浩之	登別教育委員会	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	地方公務員
伊藤　義幸	社会福祉法人　ホープ　フロンティア	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生 校友会会長
川田　弘教	川田自動車工業株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業等委員
藤江　紀彦	登別市社会福祉協議会	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	企業等委員
吉田　武史	有限会社貴泉堂	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	卒業生
黒田　友美	学生の保護者	令和5年4月1日～令和7年3月31日（2年）	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL:　http://www.nkhs.ac.jp/news/public/publicindex.html
公表時期:　45170

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
・委員会から求められた資料については、提示することが適当でないものを除き、積極的に提示するものとする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	・建学の精神、教育方針、教育目的（学生便覧） ・所在地、連絡先（HP） ・学校の沿革、歴史（学生便覧）
（2）各学科等の教育	・入学者に関する受入方針（HP） ・収容定員（HP） ・科目配当表・科目編成・授業時数（HP） ・年間の授業計画（HP） ・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等（HP） ・資格取得、検定試験合格者等の実績（HP） ・卒業後の進路・進学者数・進学先、就職者数・主な就職先（HP）
（3）教職員	・教職員の組織（H28組織図）
（4）キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組状況（HP） ・実習・実技等の取組状況（HP） ・就職支援等への取組状況（HP）
（5）様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取組状況（HP） ・課外活動・部活動（HP） ・カウンセリングルームなど（学生便覧）
（6）学生の生活支援	・学生支援への取組状況
（7）学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱金額、納入時期等（HP） ・活用できる経済支援措置の内容等（HP）
（8）学校の財務	・日本工学院北海道専門学校の財務情報（北海道校の財務情報） ・自己点検自己評価（自己評価（大項目　財務）） ・項目別の自己評価表（自己評価（項目別　財務））
（9）学校評価	・自己点検自己評価（自己評価（大項目）） ・項目別の自己評価表（自己評価（項目別）） ・学校関係者評価の結果（学校関係者の結果） ・学校関係者評価の結果に対する改善方策（結果に対する方策）
（10）国際連携の状況	なし
（11）その他	HP

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　））
URL:　http://www.nkhs.ac.jp
公表時期:　45170

授業科目等の概要

	（文化・教養専門課程 CGデザイナー科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			色彩基礎	色彩の基本を学び､色が持つ与える印象や組み合わせによる表現の幅を理解します。	1前	30	2	○			○			○	
2	○			PS･AI基礎	AdobePhotoshop・Illustratorの基本操作を学びます。	1前	60	4	○			○		○		
3	○			イラスト基礎	イラスト制作のワークフロー、ペイントソフトの基本操作や作業効率を上げるテクニックを学びます。	1前	60	4	○			○			○	
4	○			3DCG基礎	Autodesk Mayaの基本操作を学び３DCGの概念を理解します。	1前	60	4	○			○		○		○
5	○			グラフィックデザイン基礎	グラフィックデザインの基本を学び、アドバタイジングデザインの概念を理解します。	1前	60	4	○			○			○	
6			○	作品鑑賞	代表的な作品の鑑賞を通して､それぞれの作品が持つ魅力を分析し､感受性や創造性を磨きます。	1前	30	2	○			○		○		
7			○	映像表現	映像表現の手法についてを学びます。	1後	30	2	○			○			○	
8			○	キャリアデザイン１	クリエイター系職種での就職活動を前提としたポートフォリオの構成、内容を学び、ポートフォリオを作成します。	1後	30	2	○			○		○		
9			○	キャリアデザイン２	クリエイター系職種での就職活動を前提としたポートフォリオの構成、内容を学び、ポートフォリオを作成します。	1後	30	2	○			○		○		
10			○	ビジネススキル	社会人として必要なビジネスマナーを習得します。	1後	30	2	○			○			○	
11			○	ライセンス対策	マルチメディア検定ベーシックの内容を中心に、理論と仕組みを学びます。また、検定の取得も目指します。	1後	30	2	○			○		○		
12	○			造形基礎	造形の基本から、立体把握・空間認識能力を養います。	1前	30	1		○		○			○	

13	○			クロッキー・デッサン1	クロッキー･デッサンなどの美術における基礎を中心に、観察力･表現力の向上をめざします。	1前	90	3		○		○			○	
14			○	クロッキー・デッサン2	クロッキー･デッサンを中心に、より難易度の高い課題に取り組み、高い観察力･表現力の向上をめざします。	1後	90	3		○		○			○	
15		○		イラスト演習1	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1後	60	2		○		○			○	
16		○		イラスト演習2	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1後	60	2		○		○			○	
17		○		３DCG演習１	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1後	60	2		○		○		○		
18		○		３DCG演習２	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1後	60	2		○		○		○		
19		○		グラフィックデザイン演習１	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1後	60	2		○		○			○	
20		○		グラフィックデザイン演習２	それぞれの専攻に応じたスキルを作品制作を通じて習得します。	1後	60	2		○		○			○	
21	○			プランニング&コンテンツ1	作品制作におけるワークフローの理解と、企画やスケジュールなどの重要性を学びます。	1前	30	2	○			○		○		
22	○			プランニング&コンテンツ2	作品制作におけるワークフローの理解と、企画やスケジュールなどの重要性を学びます。	1後	60	4	○			○		○		
23	○			グループワーク1	グループ制作による、プロジェクトのマネージメントやコミュニケーションを学びます。	1後	30	1		○		○		○		
24			○	プロジェクト演習1	タイムリーな制作内容や課題に取り組み、それに応じたスキルを習得します。	1前	30	1		○		○		○		
25			○	プロジェクト演習2	タイムリーな制作内容や課題に取り組み、それに応じたスキルを習得します。	1後	30	1		○		○		○		
26	○			修了制作	１年次の集大成となる作品制作を行います。	1後	90	3		○		○		○		
27			○	企業フォーカス	業界で活躍するゲストを招き、クリエイティブ業界で求められる姿勢やスキルを学びます。	1前	15	1	○			○		○		

28			○	インターンシップ1	職場での実務を通して専門的な知識を学びます。	1後	60	2		○			○	○		
29			○	キャリアデザイン３	企業向けのポートフォリオ展示会に向け、リサーチや名刺作成などの仕方を学び実践します。	2前	60	2		○		○		○		
30			○	クロッキー･デッサン3	より高度なクロッキーやデッサンへ取り組み、高い観察力と表現力を身に着けます。	2前	60	2		○		○			○	
31		○		イラスト演習3	それぞれの専攻に応じた､より高度な制作内容を学びます｡また､コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2前	90	3		○		○			○	
32		○		イラスト演習4	それぞれの専攻に応じた､より高度な制作内容を学びます｡また､コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2前	60	2		○		○			○	
33		○		3DCG演習3	それぞれの専攻に応じた､より高度な制作内容を学びます｡また､コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2前	90	3		○		○		○		
34		○		3DCG演習4	それぞれの専攻に応じた､より高度な制作内容を学びます｡また､コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2前	60	2		○		○		○		
35		○		グラフィックデザイン演習3	それぞれの専攻に応じた､より高度な制作内容を学びます｡また､コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2前	90	3		○		○			○	
36		○		グラフィックデザイン演習4	それぞれの専攻に応じた､より高度な制作内容を学びます｡また､コンテストでの入賞を目指して応募を目標とします。	2前	60	2		○		○			○	
37	○			グループワーク2	グループ制作による、プロジェクトのマネージメントやコミュニケーションを学びます。	2前	90	3		○		○		○		
38	○			卒業制作企画	卒業制作へ向けた企画立案やスケジュール作成を行い、プレゼンテーションを行います。	2前	90	6	○			○		○		
39	○			卒業制作1	卒業制作展へ向けた作品制作を行います。	2後	90	3		○		○		○		
40	○			卒業制作2	卒業制作展へ向けた作品制作を行います。	2後	90	3		○		○		○		
41			○	イベントプランニング	研修旅行や学校祭の計画を立て、実際に実施しその報告をします。	2後	30	1		○		○		○		
42			○	インターンシップ2	職場での実務を通して専門的な知識を学びます。	2前	60	2		○		○		○		

43		○		卒業制作3	卒業制作展へ向けた作品制作を行います。	2後	90	3		○		○		○		
44		○		卒業制作4	卒業制作展へ向けた作品制作を行います。	2後	90	3		○		○		○		○
45		○		インターンシップ3	企業での実務を通して専門的な知識を学びます。	2後	90	3		○			○	○		
46		○		職場見学	実務を行う職場での仕事内容について学びます。	2後	90	3		○			○	○		
47		○		Office演習1	文書作成や表計算ソフトなど、Microsoft Officeの操作を中心に学びます。	2後	45	2		○		○		○		
48		○		Office演習2	文書作成や表計算ソフトなど、Microsoft Officeの操作を中心に学びます。	2後	45	2		○		○		○		
49		○		就職対策1	就職に必要な心得、ビジネスマナーや面接対策、SPI対策を行います。	2後	45	2		○		○		○		
50		○		就職対策2	就職に必要な心得、ビジネスマナーや面接対策、SPI対策を行います。	2後	45	2		○		○		○		
合計					50 科目			119 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 70.5単位以上(総授業数1,700時間以上) ※専攻別科目から9単位以上取得すること ※実務科目から4.5単位以上取得すること	１学年の学期区分	2 期
履修方法： 講義・演習による	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。